

ニホンウナギ仔魚飼育実証試験

企画・栽培養殖部 研究員 堀内 智矢

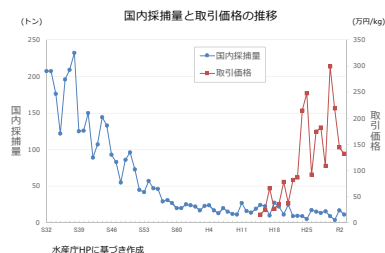
<現状と課題>

現
状

- ウナギ養殖業に使用するシラスウナギは天然種苗に依存しているが、国内採捕量の減少による取引価格の高騰はウナギ養殖業の経営に大きな影響を及ぼしている。
- 国立研究開発法人 水産研究・教育機構（以下、水産機構）では、2002年にシラスウナギまでの飼育に成功し、2010年には完全養殖に成功した。

課
題

- ウナギ仔魚を飼育する技術を有する機関や人員は限られており、シラスウナギの生産技術を実用化するためには、飼育技術の標準化に加えて再現性を向上させる必要がある。



水産機構より仔魚飼育技術移転及び人工生産ウナギ仔魚等の提供を受け、シラスウナギまで飼育し、県レベルでの仔魚飼育が可能か検証する

<目標> 鹿児島県として初めてのシラスウナギを生産するとともに年間1,000尾のシラスウナギを生産する。

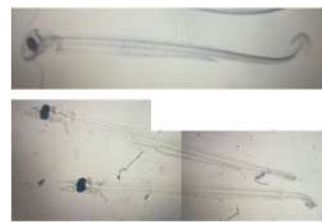
<材料と方法>

期 間：令和4年1月19日から令和4年12月27日（241日間）

供試魚：令和4年1月19日に水産機構 志布志庁舎より提供を受けた人工生産ウナギ仔魚（5日齢）

飼 料：水産機構 南伊豆庁舎より提供を受けた飼料を給餌

- 水温、注排水量は周年一定となるようにし、疾病対策として1日1回硝酸銀を添加
- 令和3年4月に水産機構 南伊豆庁舎にて飼育技術移転を受けた



人工生産ウナギ仔魚（上：5日齢，下：25日齢）

<結果>

令和4年5月27日（132日齢）に1尾目の変態を確認

鹿児島県として初めての人工シラスウナギを生産成功
※ 都道府県の生産試験として初

令和4年9月2日（230日齢）に1,000尾目の変態を確認

年間1000尾の人工シラスウナギを生産成功

達成

令和4年12月27日（347日齢）に試験を終了し、合計で

2,269尾の変態を確認

◎県での飼育が可能であると実証されたことで、今後の量産化に向けた研究の加速が期待される。



水産技術開発センターで生産したシラスウナギ



レプトセファルス（180日齢）



生産成功を報じた新聞記事（南日本新聞、令和4年7月15日）

本研究は、令和3年度～令和4年度水産庁委託事業「ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業」により実施した。